



<6>

設計(または施工も含め)をどこに頼むかが決まれば、設計のファーストステップ・基本設計に入る。造りたい家のイメージや要望を建築士に伝え、プランを詰めていくのに大切なプロセスだ。1級建築士事務所Simpleの赤嶺しげたか代表に、要望を伝えるコツを聞いた。

基本設計—要望や法規を踏まえ図面も提示

切り抜き記事で希望伝える



造りたい家のイメージを伝えるコツとして、赤嶺さんは「住宅情報紙や雑誌の切り抜きだったり、簡条書きでも要望書があると、設計する側も施主の要望をより具体的につかみやすくなり、図面に落と

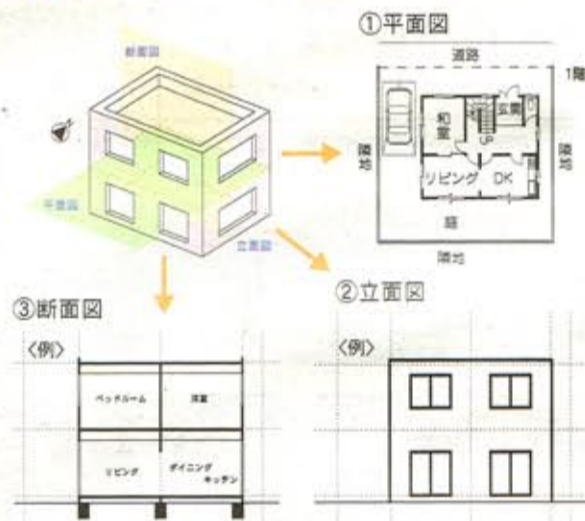
し込むのも早い。要望のまとめや切り抜きなどの資料作りを通し、夫婦や家族のコミュニケーションが深まるのでお勧めです」と話す。実際、本紙の「お住まい拝見コーナー」でも、「建築士に要望書や雑誌の切り抜きを見せた」と言う施主はとて多い。

建築士としてコミュニケーションを図ることも、要望を伝える上で大切な作業となる

です。打ち合わせは、夫婦そろってはもちろん、子どもが大きければ一緒に、2世帯であれば両親もといった具合に、できるだけ住む人みんなが打ち合わせに加わるのが理想的。コミュニケーションは、施主と建築士が信頼関係を築く上でも大切なこと」と強調した。

一方、基本設計では、施主の要望を、敷地条件や建築法規などと照らし合わせて図面が作られ、施主に提示される。作られる主な図面は、①平面図②立面図③断面図の3つ(右図)。

●基本設計で作られる主な図面



平面図・立面図・断面図は建物の造りを知る大切な図面。要望や分からない点はどんどん質問しよう

で分かる。②は、建物を真横から見た図面をいい、一般的に東西南北の4種類がある。平面図やスケッチなどと合わせて、建物の外観や開口部の位置を確認できる。③は、建物を垂直方向に切り、その断面を正面から見た図面。部屋の天井高や、部屋どうしの縦・横のつながり、床・壁・

天井の仕上げなどが分かる。赤嶺さんは「図面の見方や意味が分からない場合でも、建築士に聞いてほしい。ほとんどの建築士は専門用語を砕いて説明していますが、無意識に難しい言葉を使ってしまうこともあるので、そのときも気軽に質問を」と話した。

毎月第1・3金曜日に掲載